

鳥取県立図書館からの報告（平成 27 年度）

鳥取県立図書館
郷土資料課 中村 愛

【事業内容】 対象期間：平成 26 年 11 月～平成 27 年 11 月

1. 資料展示

- (1) ギャラリー展「障がい福祉の父 糸賀一雄顕彰展」 期間：平成 26 年 11 月 1 日～29 日
糸賀一雄（1914～1968、教育者）の生誕100年を記念し、同年4月に資料展を開催したが、顕彰プレートに併せて再展示。「全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」と連携。展示期間終了後は、学校図書館などにパネルの貸出を行った。
- (2) 資料展「和本でたどる昔の鳥取」 期間：平成 26 年 12 月 5 日～平成 27 年 1 月 7 日
新しく寄贈されたコレクション「飯田家資料」や、開館 25 年を迎えた当館の歴史、因州和紙などについて、和本資料をメインにした構成で紹介。展示にあたり、鳥取県因州和紙協同組合および谷口・青谷和紙株式会社と協力・連携。
- (3) 資料展「尾崎放哉生誕 130 周年記念資料展 俳句に光を求めて」期間：平成 27 年 1 月 15 日～25 日
尾崎放哉（1885～1926、自由律俳人）の生誕 130 年を記念し、新日本海新聞社を中心とする実行委員会の主催により開催。図書館資料からも、句稿や書簡など貴重な資料を展示した。
- (4) ギャラリー展「ととりの伝統工芸～民藝編～」 期間：平成 27 年 4 月 1 日～5 月 13 日
4 月に鳥取民藝協会の総会が開催されるのに合わせた企画展示。民藝の発展に貢献した吉田璋也（1898～1972）の紹介や、全国で数百部しか出版されなかった雑誌『工藝』を公開するなどした。
- (5) ギャラリー展「祝！日本遺産認定 三徳山あれこれ展」 期間：平成 27 年 5 月 15 日～6 月 29 日
文化庁の制定した“日本遺産”に三徳山と三朝温泉が選ばれたことを記念し、三徳山について紹介したパネルと、重要文化財「木造蔵王権現立像」の等身大パネルを設置。この時に「郷土学習ガイド 三徳山について調べよう！」を新規作成。
- (6) 資料展「戦後 70 年～昭和から平成へ～」 期間：平成 27 年 7 月 24 日～8 月 30 日
戦後 70 年間の県内における産業・交通・スポーツなどの歴史について、写真パネルを中心に展示。また公文書館とも連携し、戦後の鳥取の様子をうつした映像資料の上映も行った。
- (7) ギャラリー展「鳥取県ができるまで～9 月 12 日はとっとり県民の日～」期間：平成 27 年 9 月 1 日～29 日
“県民の日”の周知を図ることを目的に、県の歴史やシンボル（県花・二十世紀梨の花／県鳥・おしどり／県木・ダイセンキャラボク／県魚・ヒラメ）について、図書や新聞などを展示。
- (8) 資料展「とっとり文学の情景展」 期間：平成 27 年 11 月 5 日～29 日
小冊子「とっとり文学の情景」刊行を記念し、鳥取県内の名所が登場する文学作品について図書や写真パネルを展示。この時に、既成であった「鳥取県が登場する文学作品」の内容を精査し（配布資料参照）改訂版を作成。

《そのほか企画展示・ミニ展示》

- ・「鳥取県出版文化賞 2014」（平成 26 年 11 月 1 日～12 月 10 日）
- ・「紙と暮らす 折る・包む・贈る」（平成 26 年 12 月 1 日～27 日）…資料展示（2）の関連展示。
- ・「生誕 130 年記念 尾崎放哉とその周辺」（平成 27 年 1 月 4 日～25 日）…資料展示（3）の関連展示。
- ・「尾崎翠フォーラム 2015 開催記念 尾崎翠と宮沢賢治」（平成 27 年 6 月 12 日～7 月 23 日）
- ・「戦後 70 年戦争と平和を考える」（平成 27 年 7 月 24 日～8 月 30 日）…資料展示（6）の関連展示。
- ・「鳥取県出版文化賞 2015」（平成 27 年 10 月 9 日～12 月 9 日）※予定

2. イベント（講演会、研修など）

- (1) 郷土文化講演会「とっとりの情景を描く―作家の視点から―」…資料展示（8）の関連行事。
日時：平成 27 年 11 月 21 日（土） 講師：松本薫氏（作家、米子市在住）
- (2) 図書館職員実務研修会（平成 27 年 4 月）
県内図書館で主に新任の職員を対象に、「本の取り扱い方法」や「郷土資料の活用法」をテーマにした講義を実施。
- (3) 学校図書館司書研修（平成 27 年 2 月）
学校図書館司書を対象とする研修で、地域資料の収集・整理・活用についての講義を行い、郷土学習ガイド（下記参照）や当館のホームページについて広報した。
- (4) シルバーカレッジ（平成 26 年 10 月）
三井住友信託銀行鳥取支店が主催する一般県民を対象とした講座。その一環として「まんがで読む鳥取県 郷土が生んだ文学者たち」というテーマで講演を行った。

3. 情報発信事業

- (1) 小冊子『とっとり文学の情景』発行（平成 27 年 3 月）
毎年刊行している「郷土出身文学者シリーズ」の特別編として、鳥取県内の名所が登場する文学作品について、引用文や魅力ある写真で紹介した小冊子を発行した。
※次年度：大江賢次（伯耆町出身、平成 28 年 3 月刊行予定）
- (2) 「郷土学習ガイド」のテーマ追加（平成 27 年 2 月～5 月）
郷土資料の活用促進を目的に、テーマごとに調べ学習ガイド（＝パスファインダー）を作成。昨年度から今年度にかけて、10 テーマを追加し 26 テーマに増やした。既刊のものと同様、ホームページにもテキストと PDF ファイルを掲載している。

4. デジタル化・データベース化事業

- (1) 「鳥取県に伝わる昔話（仮題）」の動画コンテンツ作成（平成 27 年 6 月～）
月例イベント「鳥取県に伝わる昔話を聞く会」での語りを一話ずつ映像・記録化し、ホームページ上などで公開予定としている。語りは会の語り手に依頼し、動画の撮影・編集は職員が担当。11 月現在編集はおおむね終了しており、公開手段について検討中。今年度中に 12 話程度を公開予定。
- (2) 地域紙「日本海新聞」のマイクロフィルム化（～平成 27 年 3 月）
5 年に 1 度、外部委託により行っているもの。前年度の事業では、平成 21 年～平成 25 年の 5 年分をマイクロフィルム化した。
- (3) 郷土関係データ入力の強化（通年）
郷土資料の目次および内容登録はもちろん、郷土に関する内容が数ページ・数行しかなく郷土資料にするほどではない一般資料についても、情報が検索可能となるようデータ入力を進めている。一般図書から内容を見つけ次第データ入力したり、新着図書の開架前に内容を確認したりするなど地道な作業ではあるが、他課職員の協力・情報提供などもあり充実しつつある。